

風疹予防にご関心を

2013.07.25

暑い夏が訪れるかと思いきや、道南地方は比較的過ごしやすい日が続いています。夏には流行るであろうヘルパンギーナや手足口病も今のところは落ち着いていて、子供たちには病気に悩まされない楽しい夏休みになりそうです。

昨年から、東京、大阪など大都市を中心に風疹の流行が続いています。流行の中心は、20歳から40歳のワクチンをしていない大人です。風疹に罹る子供や大人たちは、少しの発熱と発疹と首のリンパ節が腫れるくらいでその多くは命にかかわったり、障害を残したりということはありません。しかし、流行が続いていると抗体を持っていない妊婦さんが感染して、先天性風疹症候群を患ったお子さんが生まれてくることがあります。

先天性風疹症候群は、生まれてくる赤ちゃんに心臓の奇形や白内障、難聴などおこる病気です。妊娠初期の段階で感染したことで起きますが、はっきりとした感染が意識されていない場合にも発生することが知られており、風疹に対する抗体があることがはっきりしていない場合には、妊娠前に予めワクチンをしておくことが肝要です。妊娠している女性にはワクチンを打てないため、ワクチンを2回接種したことが明らかな人や、抗体を測定して風疹に感染したことが明らかな人以外は、周りにいる人もワクチンをする必要があります。

本年7月から、妊娠を希望する女性や妊娠している女性のパートナーに対して、風疹予防接種の補助が北斗市や七飯町など一部の市町村で始まりましたが、低調のようです。

ワクチンで予防できる病気はワクチンを使って予防するのが原則です。

風疹の流行が始まってから既に13名の先天性風疹症候群のお子さんが生まれています。これ以上の悲劇が起きないためにも、年長さんの麻疹風疹混合ワクチンを含め、対象の方への速やかな接種が必要です。大人に対する風疹予防接種の詳細は、市町村に確認するか、お近くの医療機関にお尋ねください。道南地方でも風疹の感染報告がありますので、補助のあるなしにかかわらず、風疹の予防接種をぜひ行ってください。